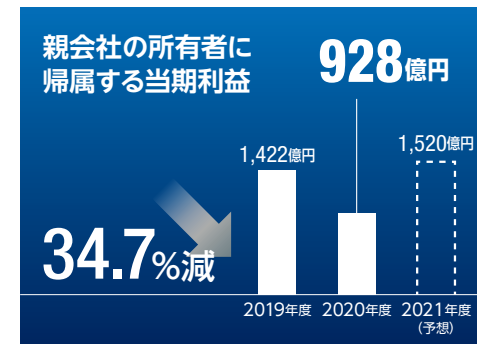
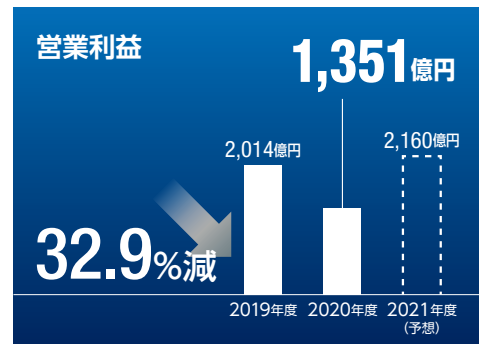
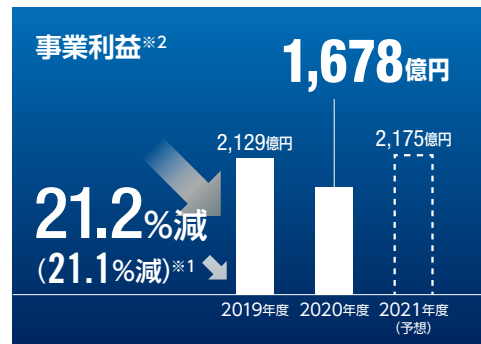
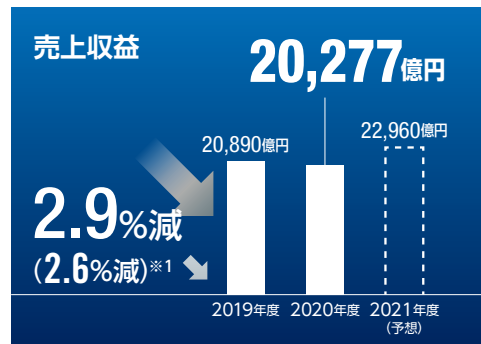


# At a Glance

決算に関する詳細情報は  
当社ホームページでご確認いただけます。

アサヒグループHD 検索



2020年の  
総括

- 新型コロナウイルスの影響により、事業全体で2.9%の減収、事業利益は21.2%の減益
- 豪州ビール事業の取得による成長基盤の拡大と財務健全性の確保

今後の  
方針

- 既存事業の回復とCUBの連結効果により、13.2%の増収、事業利益は29.6%の増益予想
- 「中期経営方針」を更新し、環境変化を見据えた経営改革を加速する

※1 為替一定：2020年の外貨金額を、2019年同期の為替レートで円換算 ※2 事業利益とは、売上収益から売上原価並びに販売費及び一般管理費を控除した恒常的な事業の業績を測る利益指標

## ニュース&トピックス

- 8月** ▶ VR(仮想現実)技術を活用し、商品パッケージデザイン決定プロセスや消費者調査を高度化・効率化することを目的とした「VR商品パッケージ開発支援システム」を開発 **P8** 参照
  - ▶ 「デジタルトランスフォーメーション銘柄(DX銘柄)2020」に6年連続で選定
  - ▶ ビール工場排水由来のバイオガスを活用した燃料電池発電の実証事業を開始 **P8** 参照
- 9月** ▶ 豪州のビール・サイダー事業(以下「CUB事業」)取得に係るファイナンスプランの一環として、公募による新株式発行及び自己株式の処分並びに当社株式の売出しに関し決定
  - ▶ 国内食品メーカーとしては初となるグリーンボンドの発行を決定
- 10月** ▶ 持続可能な水資源利用100%「ウォーターニュートラル」を実現する取組みの一環として、社有林「アサヒの森」を管理する「アサヒの森環境保全事務所」、での森林管理面積を拡大〜「ウォーターニュートラル」の95%まで進捗〜
  - ▶ 国際的な環境イニシアティブ「RE100」<sup>※1</sup>に参画

- 11月** ▶ 「責任ある飲酒」に関する取組みの一環として、本年新たにグローバルスローガン「Responsible Drinking Ambassador」を策定
  - ▶ 欧州ビール事業等を再編、ブランド管理やマーケティング機能を統合
  - ▶ ESGインデックス「DJSI」<sup>※2</sup>の構成銘柄に13年連続で採用
- 12月** ▶ 水素分野におけるグローバルな連携や水素サプライチェーンの形成を推進する新たな団体「水素バリューチェーン推進協議会」へ参画
  - ▶ CDP<sup>※3</sup>が実施する気候変動の調査において最高評価となる「Aリスト」企業に認定

※1 気候変動に関する国際NGO「The Climate Group」とCDPIによって運営される、企業の再生可能エネルギー100%を推進する国際ビジネスイニシアティブです。  
 ※2 DJSIは、米国のS&P Dow Jones Indices社とスイスのRobecoSAM社が共同で開発した代表的なESGインデックスで、経済・環境・社会の3つの分野から企業の持続可能性を評価して決定されます。  
 ※3 CDPとは、515以上の機関投資家(合計資産運用額106兆ドル)を代表し、企業に、環境や天然資源に及ぼす影響を開示するよう、またその影響を軽減する対策を取るよう働きかけている国際的な非営利団体です。

## 酒類事業



売上収益

**7,582億円**

(前期比 -1,285億円)

14.5%減

事業利益

**804億円**

(前期比 -250億円)

23.8%減

売上収益は、家飲み需要を取り込んだ新ジャンル・RTD\*の売上は前年実績を上回ったものの、新型コロナウイルスの感染拡大により、飲食店向けのビールの売上が大幅に減少したことなどにより、減収となりました。

\* Ready To Drinkの略。購入後、そのまま飲用可能な缶チューハイなどを指します。

事業利益は、製造原価の低減や収益構造改革などに取り組みましたが、売上収益の減少により、減益となりました。

## 飲料事業



売上収益

**3,533億円**

(前期比 -234億円)

6.2%減

事業利益

**278億円**

(前期比 -56億円)

16.9%減

売上収益は、炭酸飲料の販売数量が前年実績を上回りましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い自動販売機での売上が減少したことにより、減収となりました。

事業利益は、ブランドの選択と集中による広告・販売促進費の効率化や、委託製造品の自社製造への切替えなどによる製造原価の低減を図りましたが、減収影響や自動販売機の売上低下に伴う品種・容器構成比の悪化などにより、減益となりました。

## 食品事業



売上収益

**1,234億円**

(前期比 -54億円)

4.2%減

事業利益

**109億円**

(前期比 -27億円)

19.9%減

売上収益は、健康・美容食品やフリーズドライみそ汁などの売上が前年実績を上回ったものの、オフィス勤務の減少に伴い『ミンティア』の売上が大幅に減少したことなどにより、減収となりました。

事業利益は、固定費全般の効率化に取り組みましたが、売上収益が減少したことなどにより、減益となりました。

## 国際事業



売上収益

**7,929億円**

(前期比 +1,012億円)

13.5%増

(14.5%増)\*

事業利益

**941億円**

(前期比 -78億円)

8.0%減

(7.6%減)\*

売上収益は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う各国の規制などによる市場縮小の影響などがあったものの、CUB事業の新規連結効果などにより、増収となりました。

事業利益は、固定費全般の効率化などを図りましたが、業態別の売上構成比の変化による収益性の悪化やCUB事業取得に伴う一時費用の発生などにより、減益となりました。

\*為替一定：2020年の外貨金額を、2019年同期の為替レートで円換算